元気のヒ・ケ・ツ
足立の商人・創人

[編集・発行]
足立区産業経済部産業振興課
「元気のヒ・ケ・ツ」製作チーム
[問い合わせ先]
足立区産業経済部産業振興課
3880－5865（直通）

2019年2月発行

株式会社 安心堂　会長　　丸山　寛治さん

子どもの頃から足立区で育ち、「足立大好き人間なんだ」と嬉しい言葉をくださる丸山寛治さん。どのようなものにも自在に印刷できるパッド印刷機「なんでもくん」を開発された丸山さんには、意外（？）な職歴もありました。いつも笑顔で元気なそのヒケツを探ります。

－子どもの頃はどのようなお子さんでしたか－

子どもの頃からものづくりが好きで。千住高砂町で戦災に遭って、小衛門町（現・梅島）に越してね。焼け跡が遊び場で、ほじくり返すといろんな物が出てきた。出てきた物でみんなが持っていないようなおもちゃを作ったりしてね。隣のプレス屋のおじさんに、「かんちゃん、頭いいな。これおもしろいな。大きくなったらおじさんとおもちゃ工場やろうよ。」って言われたんです。その時に褒められた言葉がずっと脳裏にあってね。僕がものづくりを好きになったきっかけは焼け跡と隣のおじさんですよ。

でも、大学卒業後、10年間は証券会社に勤務して、営業をしていました。

－どうして証券会社を選ばれたのですか－

生まれて1年半で父が亡くなったんです。お袋が苦労しているところを見ていましたから。初任給が当時平均1万9千円の時に2万3千円だったから証券会社を選んだ。

入社すぐ、大阪に赴任したんです。初めて営業に入った産婦人科で名刺を出したら、それを取るなり僕の頭ごしにポンと投げられて、バンと扉を閉められちゃった。これはとんでもない業界に入っちゃったなと思ったね。気を取り直して、近くの洋服の仕立て屋さんに入って、前の出来事を忘れたいから、「今日生まれて初めて世の中に出て、今日初めてお宅に伺いました。」って言ってね。そしたら、「じゃあ、おいちゃんが験付けてやるわ。契約したる。」って、いきなり契約してくれたの。

普通の米粒に見えますが・・・　　なんと！文字が！

「世界最小の広告」
広告代理店の依頼で作成。「米粒より細かいものにも印刷できますよ。」と丸山さん。

僕はね、1日で、世の中にはあんな嫌なやつもいれば、こんな素晴らしい人もいるって一瞬にして体感した。世の中、捨てたもんじゃないってことがわかったから、僕は同僚の5倍歩いたんです。営業って、自分の人間性を売るんだね。大阪に行った結果、今があるんじゃないかって思うよ。

それから10年証券会社にいて、「自分がやりたいことは何だったのか。」と思って。

この業界に定年までいるのは僕の人生に合わないなと感じて証券会社を辞めたんです。

－証券会社を辞めてからどうされたのですか－

何をやるか考えていたところに、親戚から相談を受けてね。勤めている会社で作っている商品に貼り付けてある金属板が、納入過程で浮いてしまって返品されるからどうにかならないかと。すぐ解決できそうな業者を見つけて紹介したら、喜んでくれたし、お金にもなった。人が困っているのを助けたら仕事になることを学んだんだね。

－パッド印刷を始めたのはいつ頃ですか－

１０年以上前、プッシュ式電話のボタン部に数字を印刷できないかという相談が来たんです。そこで初めて、パッド印刷機を買って印刷してみたんだけど、うまくいかない。実際はその機械を買ったどの会社も印刷ができなかったそうだけど、僕は印刷屋としての経験が浅くてスキルがないから印刷できなかったと思ってね。それでいろいろなインキメーカーなどを巡って何回も試行錯誤を重ねて、うまく印刷できるインキを見つけたの。それがパッド印刷を始めたきっかけだね。

僕はどこの印刷屋にも入らないで、自分で開発したのね。よそでできなかったのに、うちでできたという自信があるんです。難しい仕事でも断ったことはなく、今でもテスト印刷依頼はいろんな物がきます。

丸山さんに教えていただきながら、特派員が恐る恐る挑戦・・・。とっても簡単にパッド印刷ができました！

何の変哲もなかったバインダーが大変身！これからの取材に張り合いが出ます。

－元気のヒケツを教えてください－

すし屋で生さばなどの光物や、赤貝とか貝ばっかり食べてるの。古代の人が手づかみで採っていたようなものを食べていたら病気しないと思っているんだ。

僕は自然治癒力が人一倍あるみたいで、何食べてもあたらないから、みんなびっくりするよ。

あと、薬は飲まないね。自分の生活の仕方を振り返って、悪くなったところを自分で治すというのが僕の主義なんだ。自然療法を試している。例えば、びわの葉エキスを作っていて、やけどや傷につけると痛みがすぐ止まっちゃうの。本当に痛いときは、びわ葉灸だね。どんな痛みも取れちゃう。

それから、お袋に「朝茶はその日の難逃れ」って言われてね。今でもお茶を淹れない日はないんだ。

二人三脚で歩まれてきた奥様と「うちの家内は写真が苦手なんだ。」とお聞きした編集者。奥様にお願いし、なんとかメディア初登場！

－お仕事以外にご趣味はありますか－

カラオケかな。十八番は水戸黄門の主題歌。『何もなしで生きるより、何かを求めて生きようよ』という前向きな歌詞が好きなんだ。

うちは家内も一緒に仕事しているでしょ。遅くに帰って夕ご飯の支度、大変じゃない。だから、近くのすし屋に寄るの。そこのカラオケの機械で点数が出て、ぞろ目になるとお酒が1本出るんだよ。家内は結構点数が出て、９０点なんて出たり。家内はよく声が出るんだよ。僕は７７点で1本とかね。ははは。そういう楽しみが、ある意味生きがいになっているんだね。

～編集者より～

「人を喜ばせるために、この世の中に遣わされているという思いで生きている。」79歳とは思えないほどの気概を持って、仕事に取組まれている丸山さん。お話の中に必ず人が登場します。困っている人を気遣い、解決に向けてともに取組む温かさを常に持ち続けていることが、丸山さんの元気のヒ・ケ・ツ！

株式会社　安心堂
住　所：足立区江北3-21-6
電　話：3896-6181
E-mail：anshindo@osenko.com